

## 人間福祉研究第 13 号発刊にあたって

木村 敦子  
Atsuko Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて 15 年が経ち、平成 27 年 4 月には第 16 期の新入生を迎えます。平成 26 年度の広島、そして本学について語るとき、8 月 20 日の大規模土砂災害にふれないわけにはいきません。安佐南区と安佐北区を中心に発生したこの災害により、74 名もの尊い命が犠牲となりました。その中には本学に縁のある方もいらっしゃいます。また、在学生の中にも家屋が被害に遭い、避難所での生活を余儀なくされた方がいらっしゃいました。謹んでお悔やみ、お見舞いを申し上げます。本学も建物の大部分が床上浸水しました。多くの卒業生や関係者から心配の声やお見舞いを頂きましたことを心より感謝いたします。

これまで体験したことのない困難な状況の中、多くの学生と教職員が協力して大学の復旧活動に取り組みました。社会福祉の根底をなす「助けあいのこころ」の大切さを改めて思い知らされる機会ともなりました。安佐北区社会福祉協議会から本学に対し復興支援やボランティア活動への協力依頼があり、数名の在学生、卒業生が活躍しました。今後、本紀要に復興支援の記録を掲載していく予定です。

明るい話題もあります。平成 26 年度の人間福祉学会では、県外では初となる島根県ブロック大会を 11 月に開催いたしました。本学卒業後、地元である島根県に帰省し、社会福祉の現場で活躍している卒業生が数多くいらっしゃいます。互いの連携を強化し、地域で支えあって欲しいとの思いから開催にこぎつけましたが、多くの現場経験や人生経験をへて「逞しい実践力のある人」に成長した卒業生の皆さんから、逆に私たちが多くの刺激を頂く結果となりました。このブロック大会は平成 27 年度も継続して実施して参ります。ぜひ、他地域での開催希望もお寄せ下さい。人間福祉学会は今後も卒業生や在学生、教員の繋がりの中で支えあい寄り添いあいながら、福祉の学びの道をともに歩んでいきたいと考えています。

本学でも例年通り、平成 27 年 2 月に人間福祉学会が開催されました。平成 26 年度をもって人間福祉学科教授を退任される宇土博先生の記念講演が開催されました。その記念講演の内容も本号に収録されています。

宇土先生には、人間福祉学科開設当初より 15 年間にわたって本学の教育に尽力して頂きました。先生

の、常に新しいものに挑戦し続ける姿勢に倣い、私達も前向きに、そしてひたむきに、福祉の学びの輪をひろげていきたいと思っています。

巻末には平成 26 年度「卒業研究」論題一覧を掲載しております。本年度もバラエティに富んだ研究テーマが並びました。現在、福祉を学ぶ学生がどのようなことに興味を持っているのか、「時代を映す鏡」として是非ご参考になさって下さい。

今回の災害の体験を踏まえ、本学会が学生や卒業生、教員の皆さまにとって、安心できる「心のよりどころ」としてますます充実していなくてはと改めて感じさせられた次第です。そのためには学会員の皆様の協力が不可欠です。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。